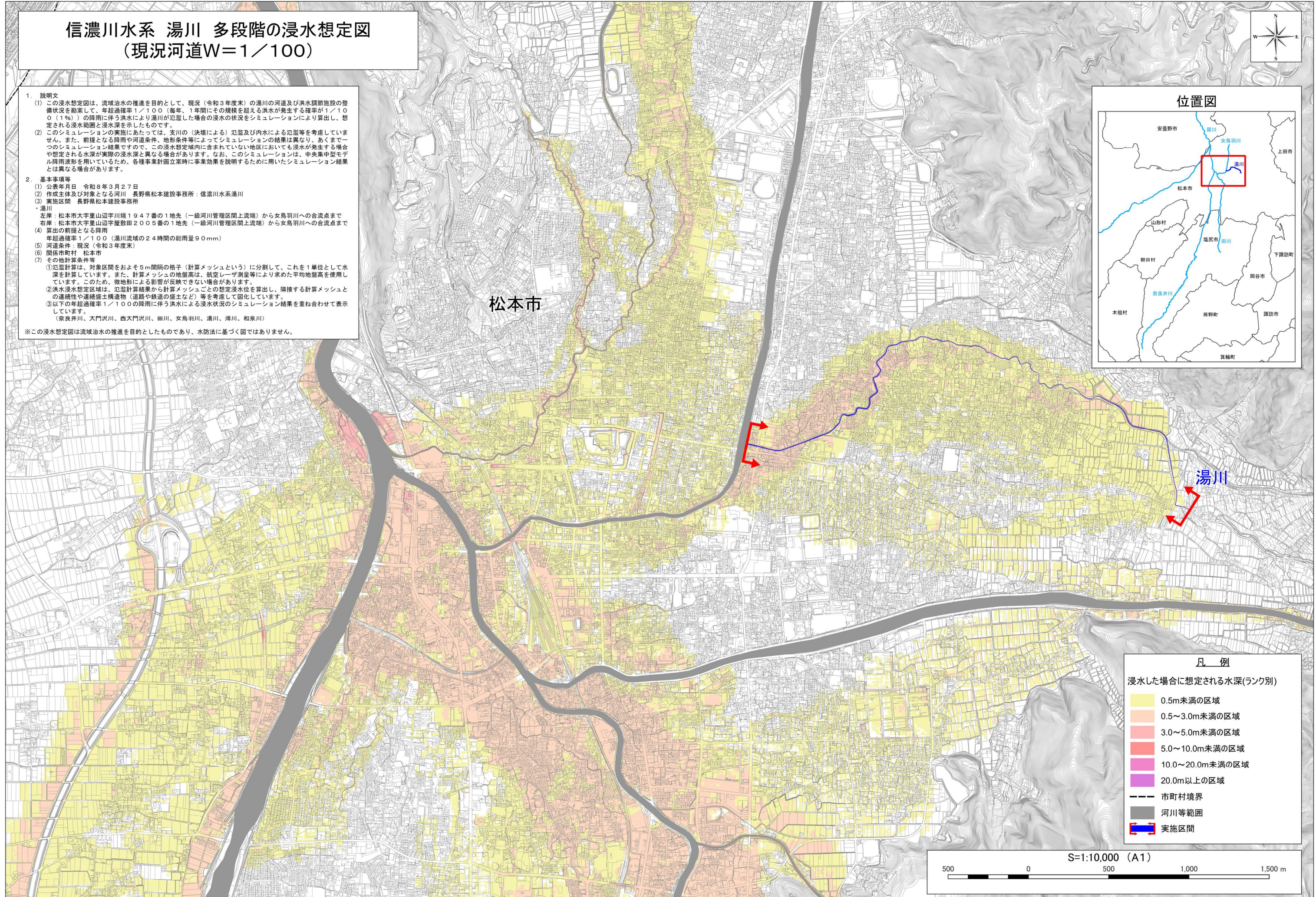
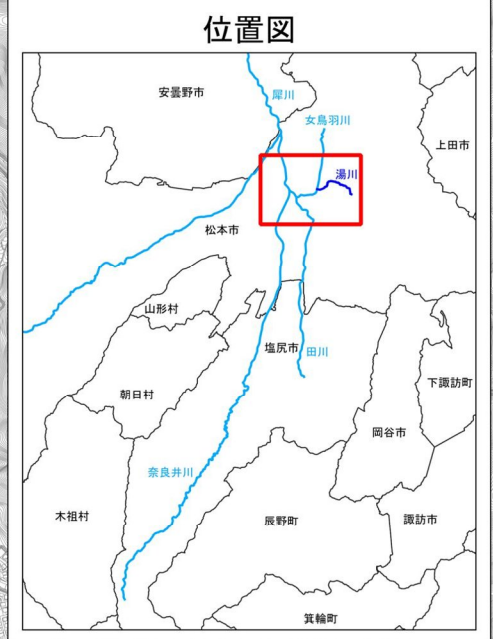


信濃川水系 湯川 多段階の浸水想定図 (現況河道W=1/100)

1. 説明文
- (1) この浸水想定図は、流域治水の推進を目的として、現況（令和3年度末）の湯川の河道及び洪水調節施設の整備状況を勘案して、年超過確率1/100（毎年、1年間にその規模を超える洪水が発生する確率が1/100（1%））の降雨に伴う洪水により湯川が氾濫した場合の浸水の状況をシミュレーションにより算出し、想定される浸水範囲と浸水深を示したものです。
 - (2) このシミュレーションの実施にあたっては、支川の（決壊による）氾濫及び内水による氾濫等を考慮していません。また、前提となる降雨や河道条件、地形条件等によってシミュレーションの結果は異なり、あくまで一つのシミュレーション結果ですので、この浸水想定図内に含まれていない地区においても浸水が発生する場合があります。なお、このシミュレーションは、中央集中型モデル降雨波形を用いているため、各種事業計画立案時に事業効果を説明するために用いたシミュレーション結果とは異なる場合があります。
2. 基本事項等
- (1) 公表年月日 令和3年3月27日
 - (2) 作成主体及び対象となる河川 長野県松本建設事務所：信濃川水系湯川
 - (3) 実施区間 長野県松本建設事務所
・湯川
左岸：松本市大字里山辺字川端1947番の1地先（一級河川管理区間上流端）から女鳥羽川への合流点まで
右岸：松本市大字里山辺字屋敷田2005番の1地先（一級河川管理区間上流端）から女鳥羽川への合流点まで
 - (4) 算出の前提となる降雨
年超過確率1/100（湯川流域の24時間の総雨量90mm）
 - (5) 河道条件：現況（令和3年度末）
 - (6) 関係市町村 松本市
 - (7) その他計算条件等
 - ① 氾濫計算は、対象区間をおよそ5m間隔の格子（計算メッシュという）に分割して、これを1単位として水深を計算しています。また、計算メッシュの地盤高は、航空レーザ測量等により求めた平均地盤高を使用しています。このため、微地形による影響が反映できない場合があります。
 - ② 洪水浸水想定区域は、氾濫計算結果から計算メッシュごとの想定浸水位を算出し、隣接する計算メッシュとの連続性や連続壁構造物（道路や鉄道の盛土など）等を考慮して図化しています。
 - ③ 以下の年超過確率1/100の降雨に伴う洪水による浸水状況のシミュレーション結果を重ね合わせて表示しています。
（奈良井川、大門沢川、西大門沢川、田川、女鳥羽川、湯川、薄川、和泉川）

※この浸水想定図は流域治水の推進を目的としたものであり、水防法に基づく図ではありません。



凡例

浸水した場合に想定される水深(ランク別)

Light Yellow	0.5m未満の区域
Orange	0.5~3.0m未満の区域
Red	3.0~5.0m未満の区域
Dark Red	5.0~10.0m未満の区域
Pink	10.0~20.0m未満の区域
Purple	20.0m以上の区域
Black dashed line	市町村境界
Grey line	河川等範囲
Red and blue double arrow	実施区間

